2025 年度アジア政経学会春季研究大会
国際シンポジウム 樫山セミナー 「戦争の記憶と戦後の秩序形成」

戦争は武器を持っての戦場での戦いとして記録されるだけでなく、個人と集団の記憶に深く影響を及ぼします。私たちが家族、学校、メディアをとおして触れる戦時の物語は多様であり、トラウマを解消できない「被害者」と「加害者」の記憶は戦後、史実に照らして見直されることなく共存したり、対立したりしていきます。さらに、メディアは、記憶に政治色をつけながら、さまざまな角度から異なる物語を映し出します。「敗戦国」であった日本では、調和が最優先される語りが主観的に選び取られ、若い世代が歴史を学ぶことに消極的になり、「和解」のプロセスに関わることがほとんどないという状況も生じています。国際シンポジウム 樫山セミナー 「戦争の記憶と戦後の秩序形成」では、国際秩序、個人のトラウマ、移住体験、戦争遺跡の歴史のナラティブなど、戦後の東アジアの歴史的記憶がどのように構築され、再現されたかを多方面から議論していきます。

日時：6 月 7 日 15:45-18:15
場所：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎

（登壇者・報告タイトル）
成田龍一「戦後 80 年 世界が大きく地殻変動する中で我々は戦争とどう向き合うのか—アイデンティティの確認、主体の形成」
＊日本女子大学名誉教授。専門は日本近現代史・都市 社会史。主な著書に『「戦争経験」の戦後史 語られた体験/証言/記憶』『歴史論集』（全３巻）など。

楊孟軒「歴史記憶はゼロサムゲームではない：民主化された台湾における戦争と植民地主義の多方向的な記憶」Historical Memory Is Not A Zero Sum Game: Democratized Taiwan’s Multidirectional Memory of War and Colonialism
＊米国ミズーリ大学歴史学部准教授。主な著書に『中国からの脱出：現代台湾におけるトラウマ、記憶、アイデンティティ』。

王柯「国家近代化の過程における日本と中国：”友”と”敵”の観点から」
＊神戸大学名誉教授。主な著書に『師であり、友であり、敵でもある--民族主義と近代中日関係』香港中文大學出版社；『中国、「天下」から民族国家へ』台湾政治大学出版社；『消えた「国民」--近代中国における「民族」の言説と少数民族の国家アイデンティティ』香港中文大学出版社；『日中関係の旋回——民族国家の軛を超えて』藤原書店；

『二〇世紀中国の国家建設と「民族」』、東京大学出版会；『東トルキスタン共和国研究－中国のイスラームと民族問題』東京大学出版会など。

（3 人の学者との対話 ＆ フロアとの討論のファシリテーション）

Agnes Lam

South China Morning Post 記者を経て、現在、香港中文大学ジャーナリズム・コミュニケーション学院講師。

張潔平

ジャーナリスト。現在、東京大学客員研究員。ハーバード大学ニーマンフェロー。中文プラットフォーム Initium、Matters 創始者。

阿古智子

東京大学総合文化研究科 教授。主な著書に、『貧者を喰らう国』『香港 あなたはどこへ向かうのか』など。

6 月 6 日のプレイベントについて

6 月 7 日は議論の時間が限られていますので、6 月 6 日 18:00-20:00 に東京大学駒場キャンパス国際交流研究棟 314 号室にて、プレイベントを行い、7 日の登壇者を招いて交流会を行います。若い人を中心に 30 名ほどをお招きします（軽食や飲み物を提供します）

（申し込みはこちら）

https://forms.gle/3wnSF2CHvcKJFEUg6